

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32206

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10565

研究課題名（和文）組織変容を伴うプリセプター保健師教育支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a Preceptor Public Health Nurse Education Support Program with Organizational Transformation

研究代表者

嶋津 多恵子（Shimazu, Taeko）

国際医療福祉大学・大学院・教授

研究者番号：80184521

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：プリセプター保健師研修に関する全国調査を実施した結果、研修の実施は57.6%であったが、研修は必要と認識されており、根拠に基づく活用しやすいプログラムの開発が必要と示唆された。全国調査の分析結果と先行研究、先進地7自治体へのヒアリングを統合し、プリセプター保健師研修のモデルプログラムの枠組み、目標、コンテンツ、回数、時期、評価方法を検討した。モデルプログラムの試行を、2020～2023年度に都道府県3か所、特別区2か所、県型保健所1か所、市町村1か所で実施した。研修プログラムは計2回、講義および演習、事前・事後課題で構成した。評価はプリセプター保健師経験学習尺度、プログラム評価等を分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

COVID-19対応を始めとする健康危機管理の必要性から、保健師の増員および資質の向上が図られている現在、新任保健師育成は喫緊の課題であり、プリセプターシップの整備およびプリセプター保健師の教育支援が求められる。本研究で開発したモデルプログラムは、組織としての人材育成の醸成に寄与すると考える。

研究成果の概要（英文）：The results of a nationwide survey on preceptor public health nurses training showed that 57.6% of respondents had implemented training, but training was recognized as necessary, suggesting the need to develop evidence-based programs that are easy to utilize. The results of the analysis of the national survey, previous studies, and interviews with seven municipalities were integrated to examine the framework, goals, content, frequency, timing, and evaluation methods of a model program for preceptor public health nurses training. A trial of the model program was conducted in 3 prefectures, 2 special wards, 1 prefecture-type health center, and 1 municipality from FY2020 to FY2023. The training program consisted of two sessions of lectures, exercises, and pre- and post-assignments. Evaluation was conducted by analyzing the Preceptor Public Health Nurse Experience Learning Scale, program evaluation, etc.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：保健師 プリセプター プログラム開発 人材育成

1. 研究開始当初の背景

健康課題の多様化・複雑化に伴い、保健師の関わる領域も多様化し、政策的にも保健師への期待が高まっている。国では系統的な保健師人材育成についての継続的な検討や、卒後臨地研修制度の提案¹⁾がなされてきた。そこでは新任期保健師育成のためのプリセプターシップの重要性や、プリセプター自身の保健師としてのアイデンティティやコンピテンシーの獲得、自己成長に繋がることが示されている。

しかしプリセプター自身の課題として、他領域や組織全体を見る視点の不足があり、それを補うプリセプター研修の乏しさ、人材育成方法が示されていないことが挙げられている²⁾。新任保健師を育成するプリセプター保健師は負担を感じており³⁾、後輩育成の自信のなさ⁴⁾が存在している。

このような負担感を軽減し、プリセプターの力量を育て、組織的人材育成を培うためには、プリセプター研修等の能力向上を目指した支援が必要である。プリセプターの能力向上に関する研究では、中堅保健師の継続教育プログラムの開発および評価がされている⁵⁾。また、プリセプターとなる中堅保健師は研修機会に乏しいため、プリセプターが新任保健師研修とともに受講し、実践力・指導力の育成を図る試みも報告⁶⁾されている。プリセプターを対象とした e-learning による介入研究⁷⁾では自己効力感、プリセプター役割に関する知識の向上が検証されている。

プリセプターシップの導入は、「新人看護職員研修ガイドライン(保健師編)」⁸⁾やキャリアラダーに示されている。その実施状況については、プリセプターによる指導を受けた経験のある者が比較的多い保健所設置市(政令指定都市・中核市・その他政令市)および特別区でも 66.5% であることが保健師の活動基盤に関する基礎調査(2016)で報告されている。

研究代表者の先行研究⁹⁾では、保健師がプリセプターを担うことにより、保健師として、組織の一員として成長する機会となることが明らかとなった。次に全国の自治体のプリセプターの実態を調査した結果¹⁰⁾、プリセプターからの指導経験が乏しい状況で保健師基礎教育の異なる新任保健師の育成を担っており、プリセプター研修等の充実の必要性が明らかとなった。さらに、プリセプター保健師経験学習尺度およびモデル^{11,12)}を開発・検証したところである。

2. 研究の目的

本研究では、プリセプター保健師教育支援プログラムの開発を目的とした。

プリセプター保健師研修は各自治体の実情に応じて取り組まれているが、具体的内容の実態調査やプリセプター教育支援プログラムの開発および評価に関する研究はみられない。

プリセプター保健師研修や教育プログラム等の具体的内容の実態やニーズを把握し、実現可能性を検討したプログラム開発および評価尺度を用いた検証を行い、その成果から、プリセプター保健師の力量形成、組織的人材育成および組織文化の形成を目指した。

3. 研究の方法

本研究では、プリセプター保健師の教育支援プログラムの開発を目的とした。先行研究で、プリセプター保健師の評価尺度の開発、アウトカムとの関連を検証したことを基盤とし、本研究では、第 2 段階としてプリセプター保健師教育の具体的内容等の実態およびニーズを把握し実現可能性を吟味したうえで、プリセプター保健師教育支援プログラムを試行、開発した。

< 第 1 段階：2018 年度 プリセプター保健師教育の実態およびニーズの把握 >

1. 国内外の保健師現任教育及び関連する理論の文献検討。
2. プリセプター保健師研修および教育プログラムのある自治体を対象としたヒアリング、報告書等資料の収集。
3. 自治体の保健師統括部門を対象としたプリセプター保健師研修および教育プログラムに関する質問紙調査の実施。

< 第 2 段階：2019 年度 プリセプター保健師教育支援プログラム案の作成 >

第 1 段階で得られたデータの分析結果及び文献検討に基づき、プリセプター保健師教育支援プログラムにおける教育目標、教育内容、教育方法、教材および評価方法を考案。

< 第 3 段階：2020～2022 年度 プリセプター保健師教育支援プログラム案の試行 >

複数のモデル自治体にて、第 2 段階で作成したプリセプター保健師教育支援プログラム案の試行および評価と修正案の検討。

< 第 4 段階：2023 年度 プリセプター保健師教育支援プログラムの実施および普及 >

1. 複数の自治体における修正版プリセプター保健師教育支援プログラムの実施および評価。
2. 各種学会、セミナー、研修等の機会を通じた研究成果の普及。

4. 研究成果

(1) 都道府県および保健所設置市、特別区におけるプリセプター保健師研修に関する全国調査目的：全国自治体におけるプリセプター保健師研修の方法や内容と研修の必要性を明らかにすることを目的とした。

方法：都道府県、保健所設置市、特別区に所属する統括的立場または研修担当の保健師、各自治体につき 1 名を対象に無記名自記式の質問紙調査を実施した。

結果：66 件（有効回答率 44.0%）の回答が得られた。研修の実施は 38 件（57.6%）、未実施は 28 件（42.4%）であった。研修の必要性は全体の 98.5%が必要と回答した。研修内容には組織が求める保健師像やプリセプター同士が互いの経験を共有し意味づける内容を含むこと、実施上の課題では研修の位置づけの曖昧さや人材育成方針がない等があった。考察：プリセプター保健師研修は多くの自治体で必要と認識されていた。研修実施に向けてプリセプター保健師研修を自治体の研修体系に位置付け、職場全体で人材育成を行う体制をつくることや、根拠に基づく活用しやすいプログラムの開発が必要と示唆された。

表1 プリセプター保健師研修における実施上の困りごと（複数回答） N=66

	総数 人（%）	実施群 (n=38) 人（%）	未実施群 (n=28) 人（%）
モデルプログラムの不足	33 (50.0)	17 (44.7)	16 (57.1)
プリセプターの意識や研修に対する動機づけ	25 (37.9)	16 (42.1)	9 (32.1)
講師確保の困難(外部講師含む)	24 (36.4)	10 (26.3)	14 (50.0)
プリセプターの人材不足	23 (34.8)	13 (34.2)	10 (35.7)
教材(テキスト・視聴覚教材)	22 (33.3)	6 (15.8)	16 (57.1)
プリセプターの経験を組織の人材育成に位置づけること	21 (31.8)	11 (28.9)	10 (35.7)
組織内での研修実施への理解	12 (18.2)	3 (7.9)	9 (32.1)
その他	2 (3.0)	0 (0.0)	2 (7.1)

(2) プリセプター保健師研修モデルプログラム案の検討

(1) で実施した全国調査の分析結果と先行研究や先進事例の知見を統合し、ワークショップを開催し情報交換するとともに、プログラム開発への研究参加希望を募った。併行して、地方自治体におけるプリセプター保健師研修のプログラム開発に向けて、先進地 7 自治体を対象にヒアリングおよび報告書等の資料収集を実施した。

以上から、プリセプター保健師研修のモデルプログラムとしての枠組み、目標、コンテンツ、回数、時期、評価方法を検討した。そして、プリセプター保健師研修プログラムのモデル実施を希望する自治体と、導入に向けての打合せを実施した。

(3) プリセプター保健師研修モデルプログラムの試行

本研究班で開発した、組織変容を目指したプリセプター保健師研修モデルプログラムを、2020～2023 年度に都道府県 3 か所、特別区 2 か所、県型保健所 1 か所、市町村 1 か所で実施した。各自治体研修担当者および統括保健師と研究班で、研修の前後に打ち合わせを行い、対象の状況に合わせて実施した。プログラム試行を開始した 2020 年度には COVID-19 蔓延と重なり、都道府県 1 か所のみから感染対策を講じつつ開催した。

研修プログラムは計 2 回で構成され、講義および演習を行い、事前課題、事後課題で研修内容の OJT での活用を目指した。評価はプリセプター保健師経験学習尺度、プログラム評価、組織のサポート体制、研修の OJT における活用について評価票への回答を求めた。

2022 年度の参加者 114 名のうち有効回答 65 名について分析した。県保健師 25 名、市区町村保健師 40 名、保健師経験年数 10.1 (1～37) 年、年齢 36.2 (24～59) 歳であった。プログラム評価では、研修内容への関心や満足感は良好であったが、活用する自信やコミットメントでは課題がみられた。研修の OJT における活用状況は、計量テキスト分析の結果 11 に大別され、「育成」「共有」「方法」「職場」のグループなどがみられた。組織メンバーと協働して新人育成に継続的に取り組むことができるよう、研修内容および事後課題と OJT との連動させる意義が示唆された。

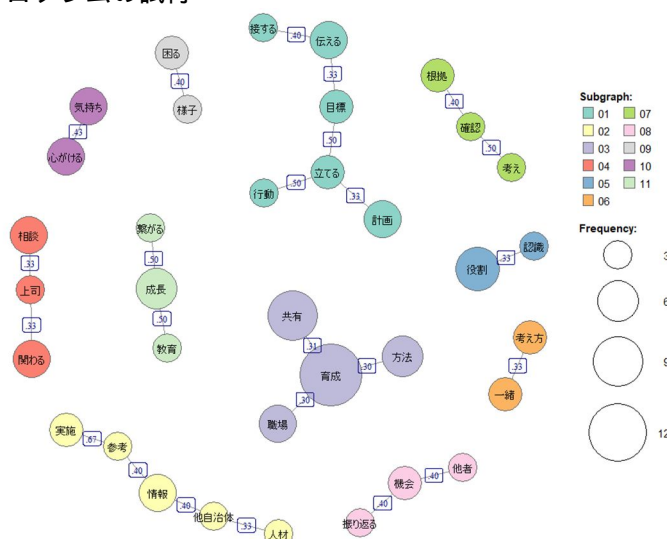


図1 研修内容のOJTへの活用

(4) 研究成果の公表

国内学会発表

・嶋津多恵子、嶋野洋子、吉野純子、遠藤直子、麻原きよみ(2019). 地方自治体におけるプリセプター保健師研修の実態～都道府県・保健所設置市・特別区を対象とした全国調査. 日本地域看護学会第 22 回学術集会.

・嶋野洋子、嶋津多恵子、吉野純子、遠藤直子、麻原きよみ(2019). 地方自治体におけるプリセ

プター保健師研修の実態 ~ 研修の有無別自治体の属性と未実施自治体の抱える困難 ~ . 日本地域看護学会第 22 回学術集会.

嶋津多恵子、嶋野洋子、吉野純子、麻原きよみ、遠藤直子、今野弘美、清水雅子(2020). ワークショップ: 根付かせよう! プリセプターシップとプリセプター保健師研修 . 8 回日本公衆衛生看護学会学術集会.

・吉野純子、嶋津多恵子、嶋野洋子、遠藤直子、麻原きよみ、今野弘美、清水雅子(2020). 地方自治体におけるプリセプター保健師研修の実態 ~ 実施自治体における研修の現状と今後の課題 ~ . 8 回日本公衆衛生看護学会学術集会.

・遠藤直子、嶋津多恵子、嶋野洋子、吉野純子、麻原きよみ、今野弘美、清水雅子(2020). 地方自治体におけるプリセプター保健師研修の実態 ~ プリセプター研修の内容・方法および研修内容で重視していること ~ . 8 回日本公衆衛生看護学会学術集会.

・嶋津多恵子、嶋野洋子、吉野純子、麻原きよみ、遠藤直子、今野弘美、清水雅子(2021). ワークショップ 「新人に相談されて困ったとき、どうしますか?」プリセプター保健師経験学習モデルの 4 つの視点で考える. 第 9 回日本公衆衛生看護学会学術大会.

・嶋津多恵子、麻原きよみ、嶋野洋子、吉野純子、遠藤直子、今野弘美、清水雅子(2021). プリセプター保健師研修を企画・構築し根付かせていくプロセス. 第 9 回日本公衆衛生看護学会学術大会.

・遠藤直子、嶋津多恵子、麻原きよみ、嶋野洋子、吉野純子、今野弘美、清水雅子(2021). 4 自治体におけるプリセプター研修の企画運営の工夫実践例 自治体の特性、人材育成の資源と経験を生かした取り組み. 第 9 回日本公衆衛生看護学会学術大会.

・嶋津多恵子、嶋野洋子、山谷麻由美、麻原きよみ、吉野純子、遠藤直子(2023). 離島を含む N 県におけるプリセプター保健師研修モデルプログラムの評価. 第 82 回日本公衆衛生学会総会.

・嶋津多恵子、吉野純子、嶋野洋子、麻原きよみ、遠藤直子(2023). S 県プリセプター保健師研修におけるモデルプログラムの評価. 第 43 回日本看護科学学会学術集会.

国際学会発表

・ Shimazu T, Hatono Y, Yoshino J, Yamaya M, Asahara K, Endo N, Konno H, Shimizu M (2024). Evaluation of a Model Programme in Preceptor Public Health Nurse Training: A Qualitative Text Analysis from the 2022 Initiative. East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS) 2024 .

< 引用文献 >

- 1) 平野かよ子、佐伯和子、荒木田美香子、河村瑞穂、嶋津多恵子、山口佳子(2010). 日本地域看護学会が提案する保健師の卒後臨地研修制度、日本地域看護学会誌、12(2)、72 - 76
- 2) 中板育美(2007). 指導者の戸惑いと後輩に寄せる思い 特集 「頼れる先輩」になる 現任教育における指導者の役割を考える、保健師ジャーナル、63(10)、856-861.
- 3) 佐伯和子、大野昌美、大倉美佳、他(2009). 地域保健分野における保健師育成のOJTに対する指導者の意識と組織体制 新任者教育の実践を通して、日本公衆衛生雑誌、56(4)、242-250.
- 4) 小野知恵(2009). 「山梨県における人材育成(現任教育)の実態把握」 保健師活動の理念的コアと個人特性・組織特性との関連について、J.Natl.Inst.Public Health, 58(3),300-301.
- 5) 和泉比佐子、横溝輝美、佐伯和子、他(2005). 中堅指導者の新任者教育に関する継続教育プログラムの評価(第1報)プリセプター役割機能に焦点をあてて、北海道公衆衛生学雑誌、18(2),35-141.
- 6) 蒔田寛子、仲村秀子、鈴木知代、他(2012). 新任期保健師の個別支援能力向上を目的とした研修の評価 家族看護に焦点をあてて、豊橋創造大学紀要、16, 93-103.
- 7) Larsen R. & Zahner, S. J. (2011): The impact of web-delivered education on preceptor role self-efficacy and knowledge in public health nurses、Public Health Nursing、28(4)、349-356.
- 8) 厚生労働省(2011). 新人看護職員研修ガイドライン ~ 保健師編 ~、
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryuu/oshirase/dl/130308-3.pdf>
- 9) 嶋津多恵子、麻原きよみ(2014). : 保健師がプリセプターの役割を担うことによる認識の変化. 日本看護科学会誌 34: 330-339.
- 10) 嶋津多恵子(2017). 保健所設置自治体におけるプリセプター保健師の現状と支援体制: 全国実態調査. 日本公衆衛生看護学会誌、6(3)、258-267.
- 11) Shimazu T (2018). The Development of a Public Health Nurses Precepting Experiential Learning Scale. Japanese Journal of Public Health、65(8)、377-385.
- 12) Shimazu T (2020). Validation of the PHNs Precepting Experiential Learning Causal Model for Preceptors of Novice Public Health Nurses in Japan. Nursing Open、00:1-8、DOI:10.1002/nop2.468.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Shimazu Taeko	4. 巻 0
2. 論文標題 Validation of the PHNs precepting experiential learning causal model for preceptors of novice public health nurses in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nursing Open	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/nop2.468	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Taeko Shimazu	4. 巻 65(8)
2. 論文標題 The development of a public health nurses precepting experiential learning scale	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Public Health	6. 最初と最後の頁 377-385
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11236/jph.65.8_377	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Shimazu T, Hatono Y, Yoshino J, Yamaya M, Asahara K, Endo N, Konno H, Shimizu M
2. 発表標題 Evaluation of a Model Programme in Preceptor Public Health Nurse Training: A Qualitative Text Analysis from the 2022 Initiative
3. 学会等名 East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS) 2024（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 嶋津多恵子、吉野純子、鳩野洋子、麻原きよみ、遠藤直子
2. 発表標題 S県プリセプター保健師研修におけるモデルプログラムの評価
3. 学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 嶋津多恵子、 鳩野洋子、 山谷麻由美、 麻原きよみ、 吉野純子、 遠藤直子
2. 発表標題 離島を含むN 県におけるプリセプター保健師研修モデルプログラムの評価
3. 学会等名 第82回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 嶋津多恵子、 鳩野洋子、 吉野純子、 麻原きよみ、 遠藤直子、 今野弘美、 清水雅子
2. 発表標題 モデルプログラムを用いたA県地域保健従事者プリセプター研修の評価
3. 学会等名 第 1 1 回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木茜、 嶋津多恵子、 鳩野洋子、 麻原きよみ、 吉野純子、 遠藤直子
2. 発表標題 A市における組織特性に合わせたプリセプター保健師研修の実践
3. 学会等名 日本地域看護学会第25回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 嶋津多恵子
2. 発表標題 保健師職能研修会，ミニ講演「保健師人材育成の今とこれから」
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鳩野洋子, 鈴木浩子, 嶋津多恵子
2. 発表標題 Content validity testing of advocacy activities for groups and communities conducted by public health nurses in Japan
3. 学会等名 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing (GNPHN) (Osaka, Japan) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 嶋津多恵子, 麻原きよみ, 鳩野洋子, 吉野純子, 遠藤直子, 今野弘美, 清水雅子
2. 発表標題 プリセプター保健師研修を企画・構築し根付かせていくプロセス
3. 学会等名 第9回日本公衆衛生看護学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 遠藤直子, 嶋津多恵子, 麻原きよみ, 鳩野洋子, 吉野純子, 今野弘美, 清水雅子
2. 発表標題 4自治体におけるプリセプター研修の企画運営の工夫実践例 自治体の特性、人材育成の資源と経験を生かした取り組み
3. 学会等名 第9回日本公衆衛生看護学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 嶋津多恵子, 鳩野洋子, 吉野純子, 麻原きよみ, 遠藤直子, 今野弘美, 清水雅子
2. 発表標題 ワークショップ 「新人に相談されて困ったとき、どうしますか？」プリセプター保健師経験学習モデルの4つの視点で考える
3. 学会等名 第9回日本公衆衛生看護学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 嶋津多恵子, 鳩野洋子, 吉野純子, 麻原きよみ, 遠藤直子, 今野弘美, 清水雅子
2. 発表標題 ワークショップ: 根付かせよう! プリセプターシップとプリセプター保健師研修
3. 学会等名 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉野純子, 嶋津多恵子, 鳩野洋子, 遠藤直子, 麻原きよみ, 今野弘美, 清水雅子
2. 発表標題 地方自治体におけるプリセプター保健師研修の実態~実施自治体における研修の現状と今後の課題~
3. 学会等名 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠藤直子, 嶋津多恵子, 鳩野洋子, 吉野純子, 麻原きよみ, 今野弘美, 清水雅子
2. 発表標題 地方自治体におけるプリセプター保健師研修の実態~プリセプター研修の内容・方法および研修内容で重視していること~
3. 学会等名 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 嶋津多恵子, 鳩野洋子, 吉野純子, 遠藤直子, 麻原きよみ
2. 発表標題 地方自治体におけるプリセプター保健師研修の実態~都道府県・保健所設置市・特別区を対象とした全国調査
3. 学会等名 日本地域看護学会第22回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嶋野洋子, 嶋津多恵子, 吉野純子, 遠藤直子, 麻原きよみ
2. 発表標題 地方自治体におけるプリセプター保健師研修の実態 ~ 研修の有無別自治体の属性と未実施自治体の抱える困難 ~
3. 学会等名 日本地域看護学会第22回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嶋津多恵子, 嶋野洋子, 吉野純子, 遠藤直子, 今野弘美, 清水雅子, 麻原きよみ
2. 発表標題 地方自治体におけるプリセプター保健師研修の実態 ~ 都道府県・保健所設置市・特別区を対象とした全国調査
3. 学会等名 日本地域看護学会第22回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嶋野洋子, 嶋津多恵子, 吉野純子, 遠藤直子, 今野弘美, 清水雅子, 麻原きよみ
2. 発表標題 地方自治体におけるプリセプター保健師研修の実態 ~ 研修の有無別自治体の属性と未実施自治体の抱える困難
3. 学会等名 日本地域看護学会第22回学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 嶋津多恵子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 33
3. 書名 これからの保健医療福祉行政論 第3版 第4章、第6章	

1. 著者名 嶋津多恵子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 17
3. 書名 公衆衛生看護学テキスト 公衆衛生看護学原論 第2版、第5章 1.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	嶋野 洋子 (Hatono Yoko) (20260268)	九州大学・医学研究院・教授 (17102)	
研究分担者	吉野 純子 (Yoshino Junko) (50290036)	東海大学・医学部・准教授 (32644)	
研究分担者	山谷 麻由美 (Yamaya Mayumi) (50516292)	国際医療福祉大学・その他の研究科・准教授 (32206)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	今野 弘美 (Konno Hiromi)	さいたま市・保健衛生局・理事	
研究協力者	清水 雅子 (Shimizu Masako)	さいたま市・保健衛生局・課長	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	麻原 きよみ (Asahara Kiyomi) (80240795)	大分県立看護科学大学・看護学部・教授 (27501)	
連携研究者	遠藤 直子 (Endo Naoko) (50589546)	国立研究開発法人国立国際医療研究センター・その他部局等・助教 (82610)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関